「新しい東北」官民連携推進協議会
令和　年度　第二回意見交換会

宮城県

9月17日

株式会社JTBコミュニケーションデザイン

アジェンダ

1．学生との事前ワークショップの実施報告

2．取材対象者について

3．実践の場（フィールドワーク）実施概要

4．3県合同セミナー

5．「新しい東北」官民連携推進協議会の今後の体制について

1．学生との事前ワークショップの実施報告

（1）実施概要

〇ワークショップ実施日：7月28日、8月4日、12日

〇参加メンバー

大学名	学部名・専攻	学年	出身地（都道府県）
東北大学	法学研究科 公共法政策専攻	院生	中国
東北大学	理学研究科地学専攻	院生	埼玉県
東北大学	法学部	3年生	宮城県
宮城学院女子大学	現代ビジネス学部	3年生	宮城県
宮城学院女子大学	現代ビジネス学部	3年生	宮城県

学校名	学部名・専攻	学年	出身
多賀城高等学校	災害科学科	2年生	宮城県
多賀城高等学校	災害科学科	2年生	宮城県
多賀城高等学校	災害科学科	2年生	宮城県
多賀城高等学校	災害科学科	2年生	宮城県

〇主な議題

①取材チーム分け

②取材対象者の絞り込み

③取材テーマ、内容の検討

● 1．学生との事前ワークショップの実施報告

（2）主な意見

■ 震災の記憶と経験の伝承に対する姿勢

- 自分が直接経験していない沿岸部の被災体験や、その場にいた人の声に触れたいという意見が多く、震災当時の“他者の体験”を学ぶ意欲が高い。
- 震災を通じて価値観や行動がどう変化したかを知りたいという関心が複数の学生から示された。
- 「伝承には限界がある」「映像で記録し、アーカイブとして残すことが重要」との共通認識がある。

■ 研究・興味との親和性を活かした関与

- 災害伝承や地域再生、津波伝承といった研究テーマと今回のプロジェクトの親和性を感じており、研究を深める機会として前向きに捉えている。

■ 映像制作と発信手段に関する意見

- 「誰に伝えるのか」を意識して映像を制作する必要があるという認識が共有され、プロレベルに近い完成度を目指すことへの期待も示された。
- デジタルアーカイブ化やGoogleマップ活用など、形式にも関心が高い。

■ SNS・募集方法への工夫

- InstagramよりもX（旧Twitter）の方が外部から発見しやすく効果的との意見があり、併用が望ましいという声があがった。
- 自身の研究室・サークル内での勧誘、大学内のリアルなネットワーク活用を提案。

1．学生との事前ワークショップの実施報告

■高校生との連携への期待

- 津波伝承街歩きを体験することで、地域に根ざした視点を得る貴重な機会と捉えている。
- 高校生が主体となって伝える姿勢に刺激を受け、「自分たちも伝える担い手になりたい」との前向きな反応あり。

（３）まとめ

- **他者の震災体験への関心：**自身が経験していない被災地の話を聞き、理解を深めたいという声が多く挙がった。
- **映像による伝承の重要性：**口頭伝承の限界を補う手段として、動画による記録・アーカイブの意義に共感。
- **研究や関心分野との親和性：**地域再生・災害伝承といった研究テーマと今回の活動が合致し、積極的な関与が見られた。
- **発信手段とSNS活用の工夫：**X（旧Twitter）や大学内ネットワークなど、多様な募集・発信方法の活用を提案。
- **高校生との連携への期待：**津波伝承活動を通じた高校生との交流に価値を感じ、自らも伝え手になる意識が芽生えている。

● 2．取材対象者について

（1）取材対象者

推薦者	推薦する人	年齢	性別	推薦理由	Google マップ	コース	場所
多賀城高校	仙台大学 教授	60代	男性	震災当時、本校で勤務し、生徒対応にあたった。また、災害科学設立にあたり、カリキュラム設計、津波伝承まち歩きの基礎を築いた。その後、本校教頭・校長を歴任した。	○	津波伝承まち歩き	津波伝承まちあるき イオン多賀城店
多賀城高校	多賀城高等学校 教諭	20代	女性	震災当時、中学2年生。災害科学科創設準備期に本校に在学。令和6年度、災害科学副担任として勤務し、本校防災教育に携わっている。	○	津波伝承まち歩き	津波伝承まちあるき 多賀城市震災モニュメント
多賀城高校	東北放送 社員	20代	男性	本校災害科学科1期生。在学時、「津波伝承まち歩き」に語り部として参加。	○	津波伝承まち歩き	津波伝承まちあるき 末の松山

● 2．取材対象者について

（1）取材対象者

推薦者	推薦する人	年齢	性別	推薦理由	Google マップ	コース
運営委員会	「SEASON」	40代	男性	自然への強い関心から環境化学を専攻し、環境学修士を修了。その後、化学商社で建築材料の営業を約7年経験。2017年にUターンし、家業に入社。2020年に経営学修士を修了。現在、社内の新規事業開発部署AvailablePJを立上げ、海藻に特化したブランド「SEASON」をリリース。	○	南三陸・気仙沼
運営委員会	気仙沼の建設会社「菅原工業」 ※学生からの推薦があるが、 場所は丸森になる可能性があり、実施しない。	20代	女性	菅原工業は建設会社として復興にも携わられているほか、気仙沼市としても推進しているインドネシア人人材の自社での受け入れ、「合同会社気仙沼の人事部」を立ち上げてインターンシップ・採用支援.気仙沼市の中学生を対象に地域教育事業など、地域課題の解決に尽力。	×	南三陸・気仙沼
事務局	東北大学　大学院文学研究科　文学部　社会学研究室	25	男	東北大学文学部博士過程. 1999年生まれ。専攻分野は地域社会学、災害社会学。被災後の生活実践と地域社会に関する研究に取り組んでいる『16歳の語り部』等の著書多数、みやぎ東日本大震災津波伝承館のシアターにも出演しており適任と考えられる。	○	仙台・山元町
事務局	特定非営利活動法人　アスヘノキボウ	未定	未定	女川町で移住定住促進事業等を行っている事業者。比較的若い年代の移住定住を促進している。	○	石巻・女川
事務局	公益社団法人　3.11メモリアルネットワーク	20代	男性	石巻市で被災. 家ごと流され、9日後に救助された. 3.11メモリアルネットワークの語り部。	○	石巻・女川
運営委員会	山元町震災遺構　中浜小学校　語り部	20代	女性	山元町の中浜小学校3年の時に被災。現在は看護師として働くが、震災遺構となった母校中浜小学校で語り部として活動している。	○	仙台沿岸・山元町
運営委員会	任意団体「Team大川 未来を拓くネットワーク」	20代	女性	自主制作映画「春をかさねて」「あなたの瞳に話せたら」制作. 震災で2歳下の妹を大川小学校で亡くす. 語り部として有名な佐藤敏郎先生の長女。	○	石巻・女川
事務局	宮城教育大学	20代	女性	石巻市門脇小学校1年の時に被災。現在は、宮城教育大学で教員を目指す勉強に励みつつ、震災遺構の案内役を務める語り部育成の研修を受けている。	○	石巻・女川
事務局	株式会社街づくりまんぼう	30代	男	※震災時は東北大の学生、石巻の震災復興・川まちづくりに携わる	○	石巻・女川

● 3．実践の場（フィールドワーク）実施概要

（1）実施概要

●実施日程・体制

- **日程：**2025年10月5日（日）
- **対象：**参加学生（高校生・大学生）東北大学、宮城学院女子大学、宮城県立多賀城高校（予定）
  東南海地域の若者も参加予定

目的

- 震災当時に学生だった20～30代の方々を取材し、震災の経験と教訓を記録する
- 震災の記憶を風化させず、デジタルアーカイブとして保存し、次世代に継承する
- Google Map上に動画を掲載し、国内外の人々がいつでも震災の記録を閲覧できるようにする

取材の流れ

- 震災当時の宮城県沿岸部の被害や復興の歩みについて学ぶ
- 取材する方々の背景や活動について事前調査を行う

デジタルアーカイブ制作（Google Mapへの掲載）

- インタビューを編集し、動画化
- Google Map上にポイントを設定し、動画をアップ

期待される成果

- 震災の記憶をGoogle Map上に記録し、未来へと残す新しい形のデジタルアーカイブを構築
- 震災当時の証言を整理・保存
- 教育や観光の場面で活用し、防災意識の向上と地域活性化を促進する
- 国内外の防災研究や教育機関に向けて、宮城県の震災記録を発信する

● 3．実践の場（フィールドワーク）実施概要

（2）想定コース

① 10月5日　9:00～11:45　多賀城高校 「津波伝承まちあるき」

推薦者	推薦する人
多賀城高校	仙台大学 教授
多賀城高校	多賀城高等学校 教諭
多賀城高校	東北放送 社員

多賀城高校 「津波伝承まちあるき」を県内外の大学を案内する風景を取材。 **・３名の取材対象者を映像＋Googleマップ動画用に取材。**

② 10月5日　11:45～12:45　場所：多賀城市文化センター　会議室

３チームにわけての、昼食/取材ブリーフィング・ワークショップ

各取材先３チームにわかれて、出発

● 3．実践の場（フィールドワーク）実施概要

（2）想定コース

①3チームにわかれ、大学生＋高校生で取材対象者を映像＋Googleマップ動画用に取材

11:45 JR多賀城駅前-多賀城文化センター
▼バス
12:45 各チームに分かれて取材

取材
■〈南三陸町〉SEASON
資源を有効活用した街づくりを実践
■〈南三陸町〉
南三陸研修センター
大学生や若手社会人を対象とした研修事業を実施

▼バス
18:00 JR仙台駅 解散

11:45 JR多賀城駅前-多賀城文化センター
▼バス
12:45 各チームに分かれて取材

取材
■〈女川町〉特定非営利活動法人
アスヘノキボウ
女川町で移住定住促進事業を推進
■〈石巻市〉公益社団法人
3.11メモリアルネットワーク
3.11メモリアルネットワークの語り部として活動

▼バス
18:00 JR仙台駅 解散

11:45 JR多賀城駅前-多賀城文化センター
▼バス
12:45 各チームに分かれて取材

取材
■〈仙台市〉東北大学 災害科学国際研究所
津波工学研究室
被災後の生活実践と地域社会について研究
■〈山元町〉山元町震災遺構
中浜小学校 語り部
震災遺構となった母校中浜小学校で語り部として活動

▼バス
18:00 JR仙台駅 解散

※取材先については取材箇所、人数が都合により変更となる場合がございます。

	大学名	学部名・専攻	学年	出身地（都道府県）	出身地（市区町村）
★	宮城学院女子大学	現代ビジネス学部	3年生	宮城県	仙台市
★	宮城学院女子大学	現代ビジネス学部	3年生	宮城県	仙台市

※1名　多賀城高校の回答待ち

● 3．実践の場（フィールドワーク）実施概要

（3）取材内容について

基本構成
1グループ（6名）で「５分程度」のインタビューしてもらいます。
各チームそれぞれ独自のテーマ・視点・登場人物で切り口を設定します。

制作された3本の中から、特に優れた視点・表現力・共感性を備えた各県1本とし、石川県・金沢大学で開催予定の「能登復興×東北の若者」交流セミナー にて上映・発表を行います。

選定目的
金沢での上映・発表という「リアルな場」が提供され、他県・他大学の学生、地域関係者との対話と共感の機会を得られます。また自分たちの作品が、誰かの心を動かす力を持っていると実感できるはずです

選出のポイント（例）
・震災経験を普遍的な学びに昇華しているか・伝える力／構成・編集の工夫があるか・「他地域にも共有したい」と思わせる視点があるか等

公開予定
3本すべてが価値あるものです。全ての作品は、他会場（例：復興庁セミナー、ウェブ公開、SNS）で発信される予定です。
能登発表に選ばれるかどうかではなく、**全員が伝える責任者である**という意識でワークショップに取り組んでもらいます。

映像スタッフの同行体制について（進行については、進行管理1名と撮影スタッフ1名の計2名が同行）
各チームにカメラマンが同行します。事前準備としてマイクをつけて頂き、リハーサルを含めた打ち合わせを行ってから撮影となります。
視聴者にわかりやすく伝えるため以下の順番で撮影していきます。

取材趣旨説明 自己紹介	取材者対象者紹介	質疑応答風景	まとめ
インタビュアー自己紹介 インタビュー趣旨説明 取材の理由や学びたい事	インタビュアーが紹介する もしくは、 取材対象者が自己紹介	インタビュアーと取材者 対象者のやり取り風景	インタビューを終えての 感想や学びについて

● 3．実践の場（フィールドワーク）実施概要

（3）取材内容について

動画の全体構造

あの時のわたしに 伝えたいこと プロジェクト 2025	タイトル 取材撮影素材 コラージュ
プロジェクトリーダー 趣旨説明インタビュー Googleマップの取組	宮城県の『新しい取り組み』 の趣旨を代表者が説明
フィールドワーク Aチームコンテンツ	フィールドワーク ①：5分 ②：5分
フィールドワーク Bチームコンテンツ	フィールドワーク ①：５分 ②：５分 ③：５分
フィールドワーク Cチームコンテンツ	フィールドワーク ①：５分 ②：５分

総時間：約25分

取材動画の構造〈チーム別〉

あの時のわたしに 伝えたいこと プロジェクト 2025 **フィールドワーク①**	
プロジェクトリーダー 趣旨説明インタビュー	インタビュアー自己紹介 インタビュー趣旨説明
取材者紹介	取材者紹介
インタビュー1 ｜ インタビュー3	質疑応答風景
まとめ	

総時間：約５分

● 3．実践の場（フィールドワーク）実施概要

（4）取材について

震災の記憶をたどる 南三陸・気仙沼コース | 震災の記憶をたどる 石巻・女川コース | 震災の記憶をたどる 仙台・山元コース

取材対象　　場所　　日時

取材対象者1名につき、3問の質問。各チームは、共通・チームテーマから1つずつ質問を担当してください。

区分	質問内容（例）	インタビュー内容	自分の表現・工夫（メモ）	担当者（氏名）
テーマ1	震災当時の状況と心境を教えてください。			
テーマ1	復興の過程で、取り組んできたことはなにですか。			
テーマ1	支えてくれた人・出来事で印象に残っていることは？			
テーマ2	あなたにとって「復興」とは何ですか。			
テーマ2	復興の経験を通じて地域への考え方は変わりましたか。			
テーマ3	将来の宮城をどんな姿にしたいですか。			
テーマ3	「当時の自分」に今だから伝えたいことは？			
テーマ3	学生世代にどんなメッセージを伝えたいですか。			
その他				
その他				

● ３．実践の場（フィールドワーク）実施概要

（５）実践の場（フィールドワーク）参加者に対する事前説明会について

◆実施日時

- 9月29日(月)19:00～20:30(オンラインで開催)※多賀城高校生は9月27日に開催予定(時間調整中)

◆実施内容(主な構成)

① 事業趣旨と震災・復興の基礎理解

- 「新しい東北」事業の目的と本年度テーマ「つながりのその先へ」の説明

② 取材チーム編成と役割分担の確認

- 事務局で参加者の出身や学年を考慮したグループ分け(6人/チーム)
- 役割分担(リーダー・撮影・記録・進行など)とチーム名の決定

③ 取材対象者の理解

- 担当する対象者の背景(職業・震災経験・現在の活動)を事前資料の提供

④ 取材テーマと質問項目の検討

- チームごとに「どんな話を聞くか」「どんな構成にするか」を検討
- 震災当時の記憶／現在の思い／次世代へのメッセージ等を軸に構成案を策定

◆成果として期待されること

- 取材活動に必要な基礎知識・姿勢を学生が習得
- 自らのチームで構想した取材と映像ストーリーをフィールドで実践できる準備完了

● 3．実践の場（フィールドワーク）実施概要

（6）参加者募集について

■ 募集対象
- 大学生
- 被災地や地域創生に関心のある方
- 地域事業者や住民と交流し、取材・議論・発信に意欲のある方

■ 実施期間
- 2025年10月5日(日帰り)
- 実施前にオンラインでの事前学習(震災と復興の歩み等)

■ プログラム内容
- 現地フィールドワーク
- 地元住民や事業者へのインタビュー
- テーマ別ディスカッション

■ 募集期間
- 申込開始日:2025年8月19日(月)
- 締切日:2025年9月22日(月)

■ 募集人数
- ワークショップ参加者と合わせて18名～20名

■ 募集方法
- 昨年度参加者への呼びかけ(事務局)
- 実行委員からの告知(実行委員)

■ 申込・お問い合わせ先
- 「新しい東北」官民連携推進協議会イベント事務局

● 3．実践の場（フィールドワーク）実施概要

（7）実践の場（フィールドワーク参加者）について

■ ワークショップから参加の学生

★印は各チームリーダー

	大学名	学部名・専攻	学年	出身地（都道府県）
	東北大学	法学研究科 公共法政策専攻	院生	中国
★	東北大学	理学研究科地学専攻	院生	埼玉県
	東北大学	法学部	3年生	宮城県
★	宮城学院女子大学	現代ビジネス学部	3年生	宮城県
★	宮城学院女子大学	現代ビジネス学部	3年生	宮城県

学校名	学部名・専攻	学年	出身
多賀城高等学校	災害科学科	2年生	宮城県
多賀城高等学校	災害科学科	2年生	宮城県
多賀城高等学校	災害科学科	2年生	宮城県
多賀城高等学校	災害科学科	2年生	宮城県

● 3．実践の場実施概要

（7）実践の場（フィールドワーク）参加者について

■ 実践の場（フィールドワーク）から参加の学生

No	大学名	学部名・専攻	学年	出身地（都道府県）
1	日本大学	法学部公共政策学科	4年生	福島県
2	金沢大学	医薬保健学域保健学類看護学専攻	1年生	埼玉県
3	関西学院大学	社会学研究科	博士課程後期課程	栃木県
4	東北大学	経済学部	1年生	宮城県
5	東北大学	教育学部	1年生	群馬県
6				
7				
8				
9				
10				
11				

● ３．実践の場（フィールドワーク）実施概要

（８）アウトプットについて

●ニュースリリースからの広報

・テレビ岩手、宮城テレビ、福島中央テレビ、※事務局フィールドワーク時の動画素材を提供

→報道への仕込み。

さらに県庁協力のもと、県政記者クラブへのリリース投げ込み、県内メディア取材対応を実施する。

● 4．3県合同セミナー

（1）実施概要

復興から14年、東北3県で培った官民連携の知見と、復興の途上にある能登地域の現状や課題を共有し、対話を通じて今後の地域間連携のあり方を共に考える機会とする。

つながりのその先へ～震災の教訓を共有し、復興の知恵を次世代へ～

- 日時：2025年12月20日・13：30～16：30
- 会場：　石川県地場産業振興センター
- 方式：現地参加（関係者）＋動画配信（※リアルタイム配信）
- 共催　：各県関連団体、金沢大学様
- 連携先：能登官民復興支援センター
- 協力　：副代表団体、実践の場に参加した高校生・大学生

■ プログラム構成

第1部－①：「官民連携推進協議会の取組について」

内容：岩手・宮城・福島各副代表団体（大学）による講演（各10分）

講演テーマ例：

「能登地域の復興の現状と課題」（金沢大学様予定）

「災後の地域に大学はいかに関わり得るか ― 陸前高田での実践を通して考える ―」（岩手）（岩手大学五味先生）

「エリアマネジメントと復興支援」（東北大学　姥浦先生）

「ふるさと愛をテーマに据えた取組について」（福島大学　藤室先生）

第1部 - ②：「能登×東北 対話の時間」

内容：能登側（大学、県庁、連復、銀行などの民間企業）と東北（第一部参加先生）によるトークセッション（30分）

テーマ例：「地域間連携のあり方」「復興初期段階の官民協働とは」

進行：後藤氏（ファシリテーター）

第2部－：「若者たちのメッセージ」

内容：3県「実践の場」で制作した映像の放映＋参加学生による感想発表・能登の参加学生（金沢大学・輪島高校など）からの発表（45分）

＜交流セッション＞

3県の参加学生（各地域2～3名※宮城県は多賀城高校）

金沢大学フィールドワーク参加者3名。輪島高校とのグループ対話（45分）

テーマ例：

・「私たちが地域のためにできること」

・「復興における若者の役割」

・「地域に住み続ける・戻る理由、離れる理由」

・「風化防止、SNS・映像を通じた復興の発信」

※参加する学生同士の交流として、「同じ現場に立つ体験」など、形式的な登壇に留まらない「共に過ごす時間」を設ける工夫を行う。

● 4．3県合同セミナー

（2）当日スケジュール

時間	プログラム内容
13:00	開場・受付開始
13:30	開会挨拶：「新しい東北」官民連携推進協議会 代表
13:40	第1部①：官民連携推進協議会の取組について 副代表大学（岩手・宮城・福島）による講演（各10分） 【講演テーマ例】 ・金沢大学：（調整中）「能登地域の復興の現状と課題」 ・岩手大学：（五味先生）「「災後の地域に大学はいかに関わり得るか ―陸前高田での実践を通して考える ―」 ・東北大学：（姥浦先生）「エリアマネジメントと復興支援」 ・福島大学：（藤室先生）「ふるさと愛をテーマに据えた取組について」
14:20	第1部②：能登×東北 対話の時間（30分） 金沢大学・東北3県・自治体・企業等によるトークセッション 【テーマ例】 ・地域間連携のあり方 ・復興初期段階の官民協働とは
14:50	休憩（10分）
15:00	第2部：若者たちのメッセージ（45分） （1）実践の場 映像上映（5分×3県） （2）学生発表（3県＋能登） （3）交流セッション（学生同士の対話） 【例】 ・私たちが地域のためにできること ・復興における若者の役割 ・地域に住み続ける／離れる理由
16:30	閉会挨拶：「新しい東北」官民連携推進協議会 関係者
16:30	終了

【会場案内（予定）】
・場所：石川県産業創出支援機構（ISICO）
　　石川県地場産業振興センター
第1研修室と同フロアの第7会議室

・所在地：〒920-8203
　　石川県金沢市鞍月2丁目1番地

・アクセス：金沢駅西口より
　　バス「工業試験場」下車 徒歩3分
　　タクシー約15分

● 「新しい東北」官民連携推進協議会の今後の体制について

【「新しい東北」官民連携推進協議会の見直しについて】

- ✓ 令和8年度から、「新しい東北」復興ノウハウ連携協議会へ名称変更。
- ✓ 現行の代表団体、副代表団体の枠組みはそのまま残す。
- ✓ 令和8年度からは、協議会運営を復興庁直営で行う。
- ✓ 「実践の場」等イベントは、福島県分の予算が認められている。
- ✓ 年1回程度、情報共有の場、福島県の取組の発表の場として、運営委員会を開催する。
- ✓ （令和7年度中）新しい東北HPは、復興庁HPに移行。

＜改正案＞
（目的）
第二条　協議会は、東日本大震災からの復興の加速化を図るとともに、復興を契機に、人口減少、高齢化、産業の空洞化等の地域の抱える課題を克服し、我が国や世界のモデルとなる創造と可能性の地としての「新しい東北」の創造に向けたこれまでの取組を通じて蓄積されたノウハウを、地方創生の取組のモデルケースとして、被災地内外に普及展開するため、多様な主体が連携して情報の共有や交換を行うことを目的とする。

【今後のスケジュール】

① 本日の意見交換会にて、名称変更のための要綱等改正案の提示

② 3月予定の運営委員会にて、決定